

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和3年1月分）

【製造業】

- 製造業は、11月の鉱工業生産指数では、前月比0.0%と横ばい。ヒアリングでは、電子材料関連が堅調であるほか、自動車関連も需要が戻ってきたとの声があった一方で、世界的な半導体不足や昨年10月に他県で発生した半導体工場の火災による影響を受けているという声があった。

【地場産業】

- 地場産業は、11月の鉱工業生産指数では、繊維工業を除いて、多くの産業で上昇した。ヒアリングでは、ネット販売は好調との声があったが、繊維工業ではファッション、ビジネススーツ関係はかなり厳しいとの声や窯業では業務用の陶磁器の需要が大幅に減少しているとの声があった。

【設備投資】

- 設備投資は、12月の金属工作機械受注額において、国内向けでは25ヶ月連続で前年を下回ったが、海外向けでは2ヶ月連続で前年を上回り、全体としては2ヶ月連続で前年を上回った。ヒアリングにおいては、設備投資に際して国等の補助金の活用を予定しているとの声が多くあった。

【個人消費】

- 個人消費は、コンビニの販売額が▲0.6%と低下したものの、ホームセンター、百貨店・スーパー、家電大型専門店、ドラッグストアの販売額は全て増加した。ヒアリングにおいては、大型スーパーにおいて売上は増加しているが来客数は減少しているとの声、商店街からは緊急事態宣言以降、来客が激減しているとの声や酒店の売上が大幅に落ち込んだとの声などがあった。

【観光】

- 観光は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月を大きく下回った。ヒアリングでは、GOTトラベルの一時停止と緊急事態宣言により予約が激減しているとの声や2月は全日休館を予定しているとの声があった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、12月の制度融資実績では、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、実質無利子・無担保融資の利用状況は落ち着いているとの声や観光や飲食業などのサービス業は厳しいが、製造業などは回復してきており、影響が二極化してきているとの声があった。

【雇用】

- 雇用面は、12月の有効求人倍率が1.28倍と4ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、人材不足となっており、新卒者、中途採用、派遣社員いずれも集まりにくい状況との声もある一方、繊維工業などでは余剰感があるとの声があった。

【景気動向】

11月の景気動向指数（一致指数）は上昇、12月の中小企業の景況感は横ばいとなった。